

〔前文〕
福音信仰に立つ私たちが、福音宣教の推進と諸教会の相互理解、協力を願う。なから、これまで三回、日本福音同盟(JEA)の主催による日本伝道会議を開催してきた。一九七四年、京都の第一回伝道会議において、私たちは聖書信仰を基礎とした相互理解と伝道協力の必要性を確認し、日本にその理念を実現する群として、自らの存在を明らかにした。一九八二年、再び京都で開催された第二回伝道会議では、伝道は教会の主体的な業であるとの認識を深め、日本特有の伝道課題を取り上げ、その対応や方策を探りました。一九九一年、那覇塩原における第三回伝道会議で、私たちは地方と世界を同時に視野に収め、日本・アジア・世界という広がりの中で伝道に取り組むという姿勢を自覚し、推進しようとしてきました。

第4回日本伝道会議・沖縄宣言

「21世紀の日本を担う教会の伝道-和解の福音を共に生きる-」

的に存在する時代において、キリストにある神との和解を救いを得る唯一の道であるという信仰を私たちは堅持しなければなりません。また分断と争いに満ちた現代社会において、環境破壊の危機にさらされている二十一世紀において、「神と人」との和解は、「人と人」「万物」という多様な

福音を共に生きるために、この会議とそこに至る積み重ねの中で私たちに与えられた認識、悔い改め、願い、祈り、決意を以下のように要約し、宣言として公にいたします。

日本福音同盟(JEA)は六月三十日、那覇市内で第十五回総会を開き、青年リサーチが世界宣教のビジョンを分かち合うことなどを目的に「世界宣教青年会議(仮称)を開催すること」を決定した。検討されてきた規約の改定では、理事長及び理事任期の限度を延長し、より長期的なビジョンに立った施策を実施しやすい体制に移行。また、これまで理事の互選で決めていた理事長人事を全会員代表議員の投票による直接選挙に変更した。吉持章氏(日本同盟基督教団)は二期二年の任期を終えて今総会で理事長を退任し、新方式による初の直選で新理事長に葛田公義氏(イムマヌエル綜合伝道団)が選出された。

初の新選 新理事長に葛田公義氏



第15回総会で決まった新理事会のメンバー。左から5人目が葛田公義・新理事長(6月30日)

「世界宣教青年会議」は、JEA世界宣教委員会(三ツ橋信昌委員長)が九八年の第二回世界宣教日本会議、九九年の世界宣教コンサレーションでの懇談などを経て、多くの青年クリスチャンが一堂に会し、世界宣教のビジョンを共に分かち合い、主に自らをささげる時と場を持つことが必要だと立案。これをJEA全体の取り組みとして受け止め、理事会が提案し可決された。

原案では二〇〇二年十二月末ごろに二泊三日、東京の第四回日本伝道会議会期中の六月二十八日、会場の

伝道会議会場の協力同意書 兄弟団と

過去三回の会議を踏まえ、ここに私たちは、一層の運命と協力の美を結ぶことを祈りつつ、JEAの枠を越えて実行委員会を組織して、第四回日本伝道会議を開催しました。世紀をまたぐ特別な時を意識し、二十世紀と私たちの歩みを顧み、二十一世紀を展望しようとする試みが、この会議の貢献となり、収穫となったことを信じます。

この「和解の福音」は、罪ある人間が救いを得るための唯一の道です。それは父・子・御霊なる三位一体の神の一方的な愛と恵みによるもので、他に類のないものです。私たちクリスト者は、神との正しい関係に入れられた者として、神の栄光のために世に遣わされ、世に向かって神との和解の福音を宣べ伝え、世にあってこの福音に生きる者となります。

マルクに数千人の聖戦部隊 「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

兄弟団と

な関係においても理解されなければなりません。こうして私たちは和解の道として「祈り」・「和解」の福音を「宣べ伝え」、和解の福音を「生きる」使命を神から受けているという深い自覚に導かれました。来るべき二十一世紀において私たちが日本の教会が和解の福音を宣べ伝え、その

マルクの紛争では二千人とも四千人ともいわれる死者が、クリスト教徒、イスラム教徒双方に出ている。「宗教抗争」とされるが、背後で民主化を阻もうとする軍の守旧派が関与し、騒動を煽っていることが、複数のメディアや現地関係者の証言で分かっている。

一方、日本キリスト教協議会(NCC)は七月五日、超教派の「マルクに和解を願う会」や市民団体と共にインドネシア大使館を通じて同国政府関係機関に対し、一刻も早く法の下の厳正な措置をとり、負傷者や避難民に適切な対応をするよう、緊急の要請をした。

ろんせつ



論説委員 有賀喜一

神の転換

「二十一世紀の日本を担う教会-和解の福音を共に生きる-」を主題に、第四回日本伝道会議が、大きな祝福の中に沖縄で開かれた。主の年二〇〇〇年、二十一世紀最後の年という世紀の節目に、「沖縄」という島の遺産を歴史に負った地で、その傷と痛みを聞き、同時に、他府県の三倍のクリスチャン人口を持ち、キリストのからだとしてその美しい一致と協力の実績をあげている

隣人の新世紀へ
今回の伝道会議のテーマは、「和解と共生」である。日本福音同盟理事長、吉持章氏は、ルカー一〇章「良きサマ

の神(自身の宣教(ミシオ・テイ)の実現の季節なのである。

「祝キリスト降誕二〇〇〇年を画期的なあかしの年に」

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているから。主の御告げ。それはわがわがではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ二九・一一)。

21世紀の日本を担うために

＜日本各地のシオンに基づ

「神は時を愛す」(ダニエル二・21)のディバイン・シフトである。人間の無力、神の全能から来る三位体的

「神は時を愛す」(ダニエル二・21)のディバイン・シフトである。人間の無力、神の全能から来る三位体的

「日本伝道会議のためにイエスが祈られること」と題して、ヨハネ一七章から「私たち(クリスト者)が一つになること」を訴えた。この

「日本伝道会議のためにイエスが祈られること」と題して、ヨハネ一七章から「私たち(クリスト者)が一つになること」を訴えた。この

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているから。主の御告げ。それはわがわがではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ二九・一一)。

エルサレムで、参加者募集を